

TOWN

盛り上がったばは踊り。学生も笑顔で踊った



旧制延中の校歌を歌う山本さん(前列)ら有志



応援でステージ上がった後輩たちと一緒に延高女の校歌を歌う関さん

# 学生から90代まで集う

延岡高校  
同窓会 第45回東京延友会に187人  
延岡高校同窓会東京支部「東京延友会」(日並哲郎会長)の第45回総会と懇親会が11月9日、東京都千代田区の本アルグランドパレスで開かれた。実行委員は、今年53歳を迎えた0885(昭和60)年生の新制37回生(眞藤泰彦実行委員長、合和たけよみ全員集合)のキャッチフレーズの下、関東在住者を中心に20歳前後から90代まで187人が集った。同窓会本部の池上武博会長(19回



丸テーブルを囲んで歓談

恒富高校の校歌を熱唱する卒業生



卒)同窓生でもある宮野原重史・現校長(30回卒)、就谷山洋司延岡市長も出席して、ふるさこの現況を伝えた。実行委員の福原(旧姓坂田)史子さんと津田雅さんが司会を務めたのは筑波大4年生の川上宙輝さん(68回卒)。同窓の絆を次世代に引き継ぎたいと、学

## 前身校の校歌歌い継ぐ

また東京在住者には懐かしい「ばは踊り」の時間も。延岡在住37回生の手本を見て踊り方を思い出した後、テーブルを囲むように輪をつくり、2回繰り返して踊って楽しんだ。フィナーレは歴代校歌の斉唱。この日出席した延岡高等女学校の卒業生は神奈川県伊豆サテ崎市在住の関節さん(93)ただ1人だったが、当たり前のように後輩たちがステージに上がって一緒に歌った。旧制延岡中学校の校歌も、男性出席者で最

年長の山本憲さん(新制3回卒)ら恒富高校の有志が歌った。恒富高校、延岡高校の校歌になると、それぞれが熱唱。最後まで盛り上がった。佐藤純前会長(1回卒)から引き継いで1月に就任した日並会長(63)は27回卒、東京都江東区には、74昭和49年に延岡高校野球部が初めて夏の甲子園に出場した時の8番左翼手。この時、捕手だった同期の横溝正博さん(神奈川県伊豆川崎市在住)によると、27回生は2カ月以上1回会うほど仲がいいが、東京延友会はまだ違った良さがあるという。後輩、先輩に会えるのが楽しみと横溝さん。

芝太太鼓



延岡高校創立120周年を祝って演奏した船橋



アトラクションに出演したChiharaさん

延岡市の読谷山市長に合宿の感触を話すヤマハの堀川監督（左）と山本選手（11日、延岡市役所）



# ラグビー・ヤマハ 「活力源はおいしい延岡の食」 山本副将「元気づけられている」

延岡市で合宿中のラグビートップリーグに所属する「ヤマハ発動機ジュビロ」の監督や選手が11日、市役所を訪問。読谷山洋司市長に「食事がおいしいから、厳しい練習ができています」などと合宿の感触を伝えた。

ヤマハは8日に延岡入り。翌9日から西階陸上競技場で合宿をスタートさせ、13日までの日程で体力強化に励んでいる。

市役所には、同市出身の堀川隆延監督（46）と副

主将の山本幸輝選手（29）が訪れた。

堀川監督は「今回の合宿は『ラスト20分を自分たちのものにする』というテーマを掲げ、体力的に厳しい練習をしています。選手が「一番分かってい」と思つ」と説明。話を振られた山本選手は「合宿前から厳しいとは聞いていたが、想像以上だった」と苦笑い。

その上で、山本選手は「なぜこの厳しい合宿を乗り越えられているのか

結論はやっぱりご飯がおいしいからだ。みんな延岡の食に元気づけられているところなすいた。

堀川監督によると、延岡合宿の直前に実施したフランス合宿では、食が合わずに減量した選手もいたという。しかし、この合宿は「厳しい練習をしているが、食事がおいしいから体重が戻ってきた」と喜んだ。

また、「地の利」を生かしたトレーニングができたことも報告。堀川監督は「10日に旭化成柔道部の選手と一緒に練習する機会があった。僕たちもこういうことは初めてで、すごく良い刺激をもたらした」とうれしそうに話した。

読谷山市長は「延岡で合宿すると縁起が良い」とヤマハの皆さんが思ってくれるとうれしい。しっかりと力を付けて、良い形でトップリーグ（来年1月12日開幕）のスタートを切ってほしい」と激励。今後も延岡から日本一を目指してもらえらると」と継続した合宿の実施を願った。

# 東関部屋、合宿打ち上げ

## 大相撲 12/10 パーティーで市民と交流

延岡

延岡市の西階運動公園で合宿を行ってきた大相撲東関部屋（東関大五郎親方）の市民交流パーティーが10日、紺屋町のエンシテイホテル延岡で開かれた。200人を超えるファンが訪れ、初場所での力士の活躍に期待を寄せた。

本雄介委員長らの先導で、振分親方（元小結高見盛）ら12人が入場。榎本委員長は「この10年で東関部屋の方々が延岡にもたらした経済効果は絶大なものがありますが、それ以上にもたらしたのは、市民の元氣、勇氣、夢であり、数字やお金に換算できないものです。市民

と東関部屋の皆さんの間に生まれた強い絆はこれからますますつながっていきます」とあいさつ。病氣療養中の東関親方に代わって指揮を執った振分親方は「皆さまと東関部屋の絆も深まったと思います。初場所で精進し、来年また力を付けて戻ってきてくれると信じています」と力強く述べ

ています」と力強く述べ、読谷山洋司市長の祝辞に続く鏡開きでは、主催者や来賓のほか、客席から2人が選ばれて壇上へ。ステージに並び、合図に合わせて地元の日本酒「千徳」のたるを勢いよく開いて景氣を付けました。延岡市議会の松田和己議長も音頭で乾杯し、力士たちの活躍と来年の再会に期待を寄せた。振分親方をはじめ、力士一人一人が紹介されると、



力士たちへねぎらいと期待を込めて乾杯



あいさつする振分親方

ねぎらいと期待の拍手が湧いていた。参加者は、テーブルを囲みながら食事や酒を楽しんだほか、北海太郎さんによるステージや振分親方のカラオケなどを楽しみ、力士による相撲甚句や力士たちとの記念撮影、握手などで交流を深めていた。

力士2人が土々呂小を訪問、児童と交流

大相撲東関部屋の力士2人が延岡合宿最終日の10日、同市の土々呂小学校（馬場康年校長、316人）を訪問。3、4年生約95人と対話形式で、夢を持つことや努力することなどについて語った。

学校を訪れたのは、幕下の美登桜さんと三段目の札野さん。3、4年生と同じ9、10歳の夢を尋ねられた美登桜さんは「宇宙飛行士」と答え、「小さい頃から相撲をやっていた。親方からスカウトが来たことで、今も続いている」。郵便局員になりたかったという札野さんは「体が弱く、いじめられていたのが悔し



児童と交流する東関部屋の美登桜さんと札野さん

かった。体の大きかった相関に憧れた」という。「飯はどのくらい食べますか?」なんて塩をまくんですか?」など子どもらしい質問が飛び、「相撲をやっている大変なことは」に美登桜さん

「食を食べること」、札野さんは「股割と答えた。その後、力士2人は児童と一緒に四股を踏んだり、相撲を取ったりして交流。4年の甲斐悠雅さんは「手のひらが僕の倍ぐらいあってびっくりした」と話した。

「食を食べること」、札野さんは「股割と答えた。その後、力士2人は児童と一緒に四股を踏んだり、相撲を取ったりして交流。4年の甲斐悠雅さんは「手のひらが僕の倍ぐらいあってびっくりした」と話した。